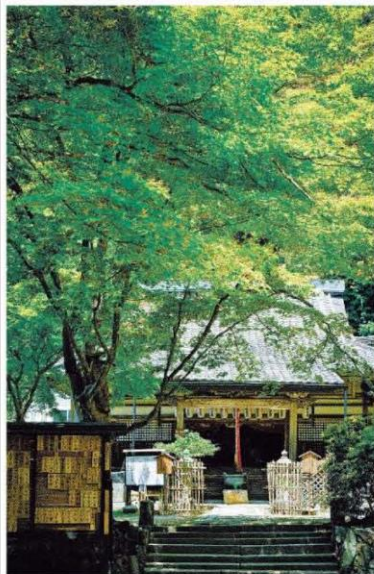


カニハタトベと父の存在を
今に伝える法蔵寺—京都市
山科区 (恵守乾撮影)



「必ず其の佳人に遇はば、
道路に瑞見れよ」
天皇は、矛を取り、そ
の娘に会うかどうか、神意を

にカニハタトベを迎えるまで
の経緯を日本書紀はそう記
す。天皇が山背(山城、京都
府南部)に行幸した時、側近
の者が旅先の豪族に美しい娘
がいると奏上したというの
だ。

「此の国に佳人有り。綺戸
辺と曰す。姿形美麗し。山背
大國不遅が女なり」
11代垂仁天皇が、最後の后



ヒメたちの見た 神と王の物語・神話

「英雄伝説」へ舞台整う

開拓者の皇子たち

〈山代の大國之洲の女、苅羽
田刀弁に娶ひて、生みませる御
子、落別王、次に五十日帯日子
王、次に伊登志別王。また、其
の大國之洲の女、弟苅羽田刀弁
の娶ひて、生みませる御子、石
衝別王、次に石衝毗売命、また
の名は布多遲能伊理毗売命〉

古事記に記された、垂仁天皇
と山城姉妹の皇子皇女の系譜で
ある。落別王は滋賀県草津市の
小槻神社や同県栗東市の小槻大
社、五十日帯日子王は新潟県三
条市の五十嵐神社や同県上越市
の五十君神社などで、各地方を
最初に開拓した祖神として祭ら
れている。

第5部 11代垂仁天皇〈5〉

る過程が述べられている」
皇学館大の荊木美行教授
は、そう指摘する。
「縁起の良い動物である大
亀によってめでたさが表現さ
れ、山城勢力と婚姻関係を結
ぶことが、王権にとつていか
に大事であったかを物語って
います」



カニハタトベを娶る前、天
皇は「山背の苅幡戸辺」を娶
ったとも日本書紀は書く。古
事記では、苅羽田刀弁と弟苅
羽田刀弁の姉妹が最後の后に
なっており、カニハタトベは

「姉妹は、琵琶湖が一望で
きる音羽山と山科盆地を拠点
に、湖上交易を掌握しただろ
う豪族の娘たちですから、

弟苅羽田刀弁と同一で、妹で
あったことがわかる。
〈垂仁天皇の時代に大國ノ
不遅が山上に音羽山権現社を
祀られたのが始まり〉
京都市山科区の音羽山に鎮
座する法蔵寺の縁起にそうあ
る。カニハタトベの父、オホ
クニノフチの本拠地は、山城
国宇治郡を構成した郷の一
つ、大國郷と想定される。現
在の京都市山科区付近であ
る。

「姿形美麗し」は豊かさを含
んでの印象でしょう」
同寺学術顧問の中村正司氏
はそう話す。



「警衝別命が勅を奉じてこ
の地に下向され、賊を平らけ
て怪鳥を討ち、民を教化して
土地を拓かせた」
弟苅羽田刀弁と皇子、警衝
別命を祭る石川県羽咋市の羽
咋神社は、創建の由来をそう
伝える。



本紙連載収録の冊子
「ヤマトタケルのまほろば」(前・後編)
発売中お申し込みは06-6633-6002

この連載は川西健士郎、坂
本英彰、安田奈緒美、安本寿
久が担当しました。

「山城の姉妹の子供たち
は、大后の比婆瀨比売命の
子、12代景行天皇や孫のヤマ
トタケルの地方平定事業を支
える存在だったのです」
荊木教授はそう話す。垂仁
天皇の后や皇子女たちが協力
して国造りを行い、ヤマトタ
ケル英雄伝説の舞台は整って
いったのである。

「民の幸せのため、未開の
地に息子を送り出す覚悟を決
めた。心豊かな女傑であった
ように思います」
櫻井基生宮司は、母として
のカニハタトベを想像する。
皇子によるこうした開拓伝承
は、琵琶湖周辺から北陸にか
けて点在している。古事記は
さらに、弟苅羽田刀弁の娘の
布多遲能伊理毗売命が、東国
などを平定した倭建命の妻に
なったことを記す。